

水 泳

～小学生の部～

種目	優勝	準優勝	3位
自由形 25m 低学年男子	八木利生太郎	横田 直季	隈部 蒼太
自由形 25m 低学年女子	松岡 知佳	鬼塚 風	横田 京花
自由形 50m 高学年男子	金子 琉輝	吉岡 拓馬	宮崎 祐志
自由形 50m 高学年女子	藤原 果穂	松岡 里奈	鬼塚 七海
平泳 25m 低学年男子	八木利生太郎	山口 嵩生	—
平泳 25m 低学年女子	鬼塚 風	酒井 礼香	—
平泳 50m 高学年男子	亀山 大貴	中村 海斗	川上 統真
平泳 50m 高学年女子	松岡 里奈	鬼塚 七海	高木 愛華
バタフライ50m 高学年男子	宮崎 祐志	吉岡 拓馬	—
バタフライ50m 高学年女子	藤原 果穂	川上 希莉	—
背泳 25m 低学年男子	池田 和樹	下田 翔今	—
背泳 25m 高学年男子	松岡 知佳	志岐 彩花	八木 結愛
背泳 50m 高学年男子	近藤 拓人	松本 涼	—
背泳 50m 高学年女子	田口 愛実	多良百綾	—
背泳 25m 低学年男子	下田 一慧	菅 浩仁	高見倫太郎
背泳 25m 低学年女子	山本ひかる	八木 結愛	藤原 菜生
背泳 25m 高学年女子	松尾 美咲	山村 文香	田島 望羽
個人メドレー100m 高学年男子	金子 琉輝	—	—
個人メドレー100m 高学年女子	藤田 瑠衣	深町 瑠里	—
リレー 100m 高学年男子	西有家小	南有馬小	—
リレー 100m 高学年女子	西有家小	有家小	口之津小

～成年女子の部～

種目	優勝	準優勝	3位
自由形 25m 30歳代	志岐 晴代	—	—
自由形 25m 40歳代	久間 晶子	—	—
自由形 25m 50歳代	近藤みどり	江上美津子	—
自由形 25m 60歳代	垣内 瞳	—	—
自由形 25m 70歳以上	鐘ヶ江静子	梶原 幹	—
自由形 50m 40歳代	稲田 洋子	—	—
自由形 50m 50歳代	近藤みどり	大場 康子	—
自由形 50m 60歳代	松本 勝代	垣内 瞳	—
自由形 25m 60歳代	松本 勝代	—	—
自由形 50m 60歳代	松本 勝代	—	—
自由形 50m 50歳代	隈部江都子	—	—
背泳 25m 30歳代	志岐 晴代	—	—
背泳 25m 50歳代	大場 康子	—	—
背泳 25m 60歳代	高橋紀美子	垣内 瞳	—
背泳 50m 40歳代	稲田 洋子	—	—
背泳 50m 50歳代	大場 康子	江上美津子	—
個人メドレー100m 30歳代	近藤みどり	江上美津子	—
リレー100m 60歳代	隈部江都子	—	—
リレー100m 壮年	口之津 布	津	—
メドレーリレー100m 壮年	口之津 布	津	—

～成年男子の部～

種目	優勝	準優勝	3位
自由形 25m 60歳代	田口 竹次	小淵 福雄	宮川 輝
自由形 25m 70歳以上	伊藤 博之	三原 昌典	多良 秀光
自由形 50m 30歳未満	小淵 航	水田 達朗	—
自由形 50m 30歳代	吉岡 正剛	田口 享史	山本 和信
自由形 50m 40歳代	横田 耕詞	—	—
自由形 50m 50歳代	植川 義弘	—	—
自由形 25m 50歳代	本多 守	—	—
自由形 25m 60歳代	山下南海夫	小淵 福雄	近藤昭太郎
自由形 25m 70歳以上	佐藤 明	伊藤 博之	多良 秀光
自由形 50m 30歳未満	永石 金寛	—	—
自由形 50m 30歳代	近藤 慎介	—	—
自由形 50m 40歳代	中島 健史	山崎 英雄	—
自由形 50m 50歳代	本多 守	—	—
自由形 50m 60歳代	山下南海夫	—	—
バタフライ 25m 50歳代	植川 義弘	—	—
背泳 25m 50歳代	隈部 惠	長池 勝好	—
背泳 25m 60歳代	近藤 正治	近藤昭太郎	宮川 輝
背泳 25m 70歳以上	三原 昌典	佐藤 明	—
背泳 50m 30歳代	千葉 秀紀	—	—
背泳 50m 50歳代	隈部 惠	長池 勝好	—
個人メドレー100m 30歳代	千葉 秀紀	近藤 慎介	田口 享史
リレー100m 一般	深 江	南有馬	西有家
リレー100m 壮年	西有家	布 津	—
リレー100m シニア	南有馬	—	—
メドレーリレー100m 一般	西有家	深 江	南有馬
メドレーリレー100m 壮年	布 津	西有家	—
メドレーリレー100m シニア	南有馬	—	—
年代別リレー150m	有家 B	有家 A	口之津



～中学生の部～

種目	優勝	準優勝	3位
自由形50m 男子	酒井 俊貴	山口 嵩生	松井 虹環
自由形50m 女子	豊島 愛	菅 彩音	—
平泳ぎ50m 男子	山口 嵩生	—	—
個人メドレー100m 男子	酒井 俊貴	—	—

競技に参加された皆さん、お疲れ様でした。 ●南島原市体育協会ホームページ <http://www.just.st/?in=913200>

副市長を公募



南島原市がスタートして5年目を迎えますが、安全・安心な市民生活のさらなる向上を目指し、産業振興、雇用拡大、福祉や教育の充実など積極的取り組み、「南島原市に学

藤原 未幸

べ」といわれるような活気と元気に溢れたまちづくりを進めたいと考えています。これからの南島原市の目指すまちづくりに、私たちと一緒に頑張って働きたい見識や豊かな発想力と経営感覚をもって、意欲的に取り組んでいただける人を、副市長候補者として広く全国から公募します。

応募期限 **11月11日(木) 必着**

南島原市の状況

南島原市は、平成18年3月31日に8つの町が合併し、新たな市としてスタートしました。基幹産業である農業や漁業が営まれていたほか、生産量全国第2位を誇る伝統的な「島原手延べそうめん」、世界遺産暫定一覧表に登録された「キリスト教関連遺産」や世界ジオパーク日本第1号で加盟した「島原半島ジオパーク」など、全国に誇れる文化・自然資産を有しています。

できる暮らしを支えています。一方、出生率の低下や若者の流失などによる、人口減少と、少子高齢化が全国平均を大きく上回るスピードで進行しており、社会経済活動に大きな影を落とすつあります。また、福祉問題や雇用対策、道路整備、公共交通網対策など、取り組むべき課題は山積しており、市自らが調達できる自主財源が乏しい中、限られた財源での効率的な行政運営が求められています。

「南島原市過疎地域自立促進計画(素案)」に関する市民意見募集 (パブリック・コメント)

南島原市過疎地域自立促進計画を策定するに当たって市民などの意見・提案をいただくため、「素案」についての市民意見募集 (パブリック・コメント) を行います。

- 資料の閲覧場所
企画振興課、各支所および市ホームページ
- 期間/9月22日(水)～10月15日(金)
- 意見などを提出できる人
市内に在住する人、事業所を有する人など(詳細はお問い合わせください)
- 意見の提出期間
9月22日(水)～10月15日(金)【必着】
- 提出方法
住所、氏名、年齢、性別を記載のうえ、持参、Eメールまたは郵送してください(様式は問いません)。 ※その他いただいた意見の要旨と市の考え方は、後日ホームページなどで公表します。

パブリックコメントって?

市の基本的な政策などを策定するときに行う手続きのことです。具体的には、あらかじめその政策などの目的や内容などを皆さんに広く知らせ、それに対する意見を求めます。皆さんから寄せられた意見などを考慮して最終的に意思決定し、寄せられた意見や意見に対する市の考え方などを公表します。大事な計画に、市民の意見を反映させる仕組みです。

企画振興課 ☎050(3381)5030
FAX0957(82)3086
Eメール kikaku@city.minamishimabara.lg.jp
〒859-2211 南島原市西有家町里坊96番地2

応募資格

- ①南島原市の目指すまちづくりに、民間などにおける職務経験を生かし、深い見識、豊かな発想力、行動力と熱意を持って行政経営に取り組みめる人
- ②日本国籍を有し、平成23年4月1日時点で満30歳以上の人(性別、学歴は不問)
- ③民間の企業などでの経験を有する人
- ④就任後は市内に居住できる人(現住所には特に居住地要件はありません)
- ⑤地方自治法第164条および地方公務員法第16条に規定する欠格条項に該当しない人

申込書の入手方法

人事課、各支所に申込書を準備しています。また、郵便請求、ホームページからの入手もできます。郵便請求の場合は、返信先を記載し、120円切手を貼付した角型2号の封筒を同封し、人事課あて送付してください。

応募方法

次の書類を人事課に直接持参するか、封筒左下部分に「南島原市副市長候補者公募申込書在中」と朱書きし、簡易書留で提出してください。

- ①南島原市副市長候補者公募申込書(写真貼付)
- ②課題論文

選考方法など

第一次選考は、申込書、課題論文による。第二次選考は、第一次選考合格者への面接

任期、待遇等

- ①任期/選任を受けた日から4年間(議会の同意が必要)
 - ②給与、待遇/平成22年9月1日現在の給料月額644,100円。常勤の特別職として勤務。
- ※その他の詳細は、別途配布する申込書をご覧ください。

応募期限

11月11日(木) (必着)
南島原市人事課
☎050(3381)5021
〒859-2211 長崎県南島原市西有家町里坊96番地2

